

みめぐみの

■ 楽曲データ

歌詞：河合恒人 作詞

楽曲：古関裕而 作曲

発表：大谷楽苑 1948年

初演：大阪毎日会館、1948年

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

管理番号：M0305

■ 創作の経緯

大谷楽苑より「讃仰歌」第3番として発表。歌詞は公募による。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1948年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

戦後まもない1947（昭和22）年、真宗大谷派では、第24代門首大谷光暢・智子夫妻の願いにより「大谷楽苑」が創設され、「讃仰歌」と呼ばれる新しい仏教讃歌を次々と世に送り出しました。発表された作品には、《みほとけは》《青草は》《人の世の》など、今日でも歌い継がれているものが少なくありません。《みめぐみの》も、そのなかの一曲です。

◆ 詞について

作詞の河合恒人（1925～）は、後に学校法人河合塾の学長などを務めた人物です。この詞は腸結核の病床で綴ったといわれ、浄土の莊嚴が美しく描写されています。さらに、作詞者の信心の生活から自然にあふれ出た、現世を生き抜く決意が感じられます。

◆ 曲について

作曲の古関裕而は、1909（明治42）年福島県に生まれ、1989（平成元）年に80歳で亡くなるまで、大衆に親しまれる歌を数多く作曲しました。

戦時中は、《露営の歌》《暁に祈る》などの軍歌・戦時歌謡も書きましたが、戦後は《長崎の鐘》《君の名は》など独特の哀調を帯びた曲や、《高原列車は

行く》《あこがれの郵便馬車》といった軽快で明るい歌も作曲しました。歌謡曲以外にも、1964（昭和39）年開催の東京オリンピック開会式で演奏された《オリンピック・マーチ》や、NHKラジオ第一放送「日曜名作座」のテーマ音楽などが、よく知られています。

仏教讃歌では、《青草は》（目良初子作詞、大谷楽苑発表「讃仰歌」第4番）や、《しんらんさま》（滝田常晴作詞、真宗各派協和会発表）などを遺しました。いずれも親しみやすく、人びとの心をとらえるメロディーで、仏さまのお徳を讃えています。

《みめぐみの》では、ピアノ伴奏に三連符をふんだんに用いて、明るく生き生きとした律動を示しています。

◆歌い方について

- ①ピアノ伴奏をよく聞き、曲の持つリズムをつかみましょう。三連符をいつも身体に感じながら、流れるように歌ってみてください。
- ②弱起（弱拍から初まる）の曲です。4拍目に単語の語頭がありますので、はっきりと。
- ③13小節目の2分音符は、喉がしまらないように気を付けて歌いましょう。
- ④10小節目3拍目、11小節目3拍目の8分音符は、乱暴になったり跳ねたりしないよう、ていねいに処理しましょう。
- ⑤13・15・19小節目の8分音符は、旋律の動きと音程を十分に練習してください。
- ⑥1番から3番まで共通な「うつくしき」の繰り返しは、単調にならないように、徐々に大きく。1回目のあと息継ぎはせずに、2回目をより大きく歌ってください。

◆用途・楽譜・音源など

仏前結婚式や初参式、慶讃法要などに最適です。仏教婦人会の例会などでもぜひ歌ってください。

二部合唱版の楽譜が『讃歌集 二部合唱』第5巻に掲載されています。BGMとしては、CD『和雅音』収録の音源をご活用ください。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 24（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第149号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.